

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	17H06119	研究期間	平成29(2017)年度 ～令和3(2021)年度
研究課題名	ナノスケールラボラトリーの創製 と深化	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	村田 靖次郎 (京都大学・化学研究所・教授)

【令和2(2020)年度 研究進捗評価結果】

評価		評価基準
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、フラーレン中に小分子、金属原子あるいはヘテロ原子を温和な条件下で挿入した内包フラーレンを調製し、これを「ナノフラスコ」として活用して、内包された物質のバルクとは異なる性質を明らかにすることを目的としている。</p> <p>ナノフラスコの開口、修飾、修復の課題において着実な進展が認められる。また、比較的安定な小分子については内包させることに成功しており、その特異な性質を明らかにしている。一方で、当初の目標として初年度に達成する予定としていた金属原子や高活性分子の内包については報告できる段階まで至っていない。今後、電子デバイスやナノカーボンとの融合など幾つかの研究計画について着実な進展が望まれる。</p>		